

誰もが 生まれて生きる 社会を目指して。

～ 新型出生前診断を通して考える～

お母さんの血液を検査し、お腹のなかの赤ちゃんにダウン症など
3つの染色体異常がないかを調べる「新型出生前診断」。

障害の可能性があることがわかったとき、家族は十分な情報も
精神的ゆとりもない状況で大至急、産むかどうかの
選択を迫られます。そして9割のかたが産まないことを
選んでいます。出生前診断は「いのちの選別」という
問題と切り離すことはできません。

生まれてくる意味のない命があるのでしょうか？
一度立ち止まって一緒に考えましょう。



お子様連れの方
託児あります。

10名前後まで対応可ですので
お早めにお申し込み下さい。



2016年3月20日(SUN)

□ 開場時間 ▶▶ 13:00 □ 開演時間 ▶▶ 13:30

□ 開催場所

小倉医療センター (旧国立小倉病院)

小倉医療センター内、地域研修センター「**鷗ホール**」
かもめ

□ 申し込み方法



メールにて
申し込み受付中!

daremoga2016@gmail.com

参加費

大人

1,000円

大学生
中高生

500円

当事者

無料

ひと家族
最大2,000円

定員

150名

事前申込みを
お願いします。

プログラム

1 13:30～

開会

2 13:35～

講演

古庄知己
中込さと子

15分休憩

3 14:35～

講演

藤山節子
久米奈津雄
長谷川知子

15分休憩

4 15:45～

質問・

ディスカッション

5 16:25～

まとめ

武田康男

6 16:40～

閉会

アクセスMAP



小倉医療センター(旧国立小倉病院)
小倉医療センター内、地域研修センター「鷗ホール」

福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘10番1号
TEL093-921-8881 FAX093-922-5072
HPアドレス <http://www.kokura-hp.jp/about/access.html>

来賓講師

患者と家族に寄り添う医療者の先生がた

こしょう ともき
古庄 知己先生

信州大学医学部附属病院遺伝子診療部
小児科医・臨床遺伝専門医

出生前診断とは全く違う遺伝のご講演の際に、出生前診断のお話になったとき、「可愛いのにね!」「ダウン症だけじゃないよ、13も18トリソミーも可愛いよ!」と笑顔で答えられる先生です。遺伝の最先端の研究をされながら、生まれる前、生まれてきた赤ちゃんに愛情たっぷり、近くにいるとほっと暖かくなる先生です。

はせがわ ともこ
長谷川 知子先生

臨床遺伝専門医、小児科専門医
いでんサポート・コンサルテーションオフィス

小児科医として医療や療育、社会の誤解や偏見を取り除く為に心を尽しておられます。ダウン症が出生前診断の対象とされる背景に、本来ごく普通に魅力あるダウン症の人々に対する無理解や偏見があることや、胎児の立場に立って出生前診断の問題の重大さを訴えてこられました。

なかごみ さとこ
中込 さと子先生

山梨大学
助産師

看護の立場から、ダウン症で生まれた子どもと家族の支援を行っておられます。山梨大学では看護学専攻に遺伝看護学特論を開設されました。遺伝を廻る問題は個人やその家族の問題に留まらず、社会的インパクトも大きく、その解決は科学的側面だけでなく社会文化的アプローチが重要と考えておられます。

たけだ やすお
武田 康男先生

ダウン症等支えあいの会 世話人
歯科医

北九州市を拠点に長年にわたり、口唇口蓋裂やダウン症など障害のある赤ちゃんが生まれた家族の支援、心のケアを行っておられます。仕事が終わった後、家庭を訪問してご両親の悩みを聞き、適切なアドバイスをしてください。また、小さな子を亡くした親の会「星の会」を主宰されています。当事者の心に寄り添ってくださる心優しく熱い先生です。

ダウン症のこどもと毎日過ごしている家族を代表して

ふじやま せつこ
藤山 節子さん

母親
日本ダウン症協会 広島支部

広島でダウン症の方々のスピーチ大会を実施されています。娘さんにダウン症があり、『親として本人の代弁者になれるかと思っています。本人が出生前診断にどう反応し、どう行動しているかを中心に話します』。娘さんと共に生き学ばされた母親として、本人の反応を話すことは出生前診断の問題を考える上で重要と考えておられます。

くめ なつお
久米 奈津雄さん

父親
日本ダウン症協会 福岡支部

福岡県内にお住まいの3人きょうだいのお父さんで、高校生の息子さんにダウン症があります。その息子さんの存在に、家族みんながよい影響を受けているそうです。特別支援学校の教員として障がい児教育に携わっておられます。